



技術賞

燃焼研究の成果を生かした技術開発に対して贈られるもので、ガス器具としては初めて受賞しました。

技術賞受賞

平成7年11月24日。ガスターと東京ガスは「低騒音型・低NO_x給湯器の開発」に功績をあげ、燃焼研究とその利用に貢献したとして日本燃焼学会より「技術賞」を授与されました。

東京ガスが基礎燃焼技術研究の確立、ガスターは商品化(開発設計・生産技術開発)を各々担当、共同開発しました。今回受賞の対象となったガス給湯器は、「低騒音型・低NO_x」を搭載したユメックス・アステージ給湯器シリーズです。

受賞の理由

低NO_xで低騒音を両立させるという燃焼技術上の難問を、目標をはるかに上回る「騒音値45dB以下」「NO_x値約50ppm以下」の数値でクリアし、実用化に成功したことが受賞の理由です。

日本燃焼学会について

日本燃焼学会は、「燃焼に関する学術研究の振興ならびにその成果の普及と国際燃焼学会との連絡を図る」ことを目的に1954年(昭和29年)国際燃焼学会の日本支部として発足されました。会員は燃焼関係を専門とする大学教授を中心に企業の研究者、技術者団体など約600名で構成されています。表彰部門は「技術賞」「功労賞」「奨励賞」の三部門で、その賞にふさわしい業績があった場合のみ年間若干名を表彰しています。燃焼研究を具現化(商品化を成功させた)した技術に対して贈られるのが「技術賞」です。

